

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教173年
11月号

秋季大祭講話

さあ、眞実を出そう

大教会長様 お話

立教173年笠岡大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと、役員・教会長・よふぼく・信者、多数参拝の中、執り行われた。大教会長様は神殿講話で「世界一れつをたすけたい」という立教のご宣言を引用され、親神様の思し召す「たすけ」と私たちの理想とする「たすかり」との違いに視点をおいて、具体的な方法を示されながら、親神様の思召に添い切る道を促された。要旨は次の通り。

秋の大祭は立教の元一日を記念してつとめますが、それは「世界一れつをたすけたい」というお言葉のもとに始った元一日です。

今日は、そのお言葉、そしてそこに込められた親心について、お取り次ぎします。

◎「この道は「世界一れつをたすける」道

今を逆上ること百七十三年前、天保九年十月、「我は元の神・実の神である。この屋敷にいんね

んあり。このたび、世界一れつをたすけるために天降った。みきを神のやしろに貰い受けたい。」という一言によって、この道は始まりました。

そのお言葉の眞意はどこにあるのかと申せば、「世界一れつをたすけるために天降った」、この一言に尽きると思います。

いわば、身上事情に困っている私たち人間一人ひとりではなくて、世界中の子どもをたすけあげたいと言って、この道を付けてくださいました。

◎「これから先」を視野に入れる

そういうお言葉なら「親神様が、世界一れつをたすけてくださり、陽気ぐらしの世界に立て替えてくださる」と思っただけですが、もう既に百七十三年も経ち、とっくの昔に陽気ぐらしに立て替わっていてもおかしくないはずなのに、今の世情を見てみると、私たちが理想とする陽気ぐらしの世界とは違う、むしろ、悪くなっているような感じがします。

(親神様がお導きくださった結果の)今の現実が、私たちの理想と違うとするなら、私たちの思う「たすかり」と親神様の仰る「たすけ」とに、自ずと違い(ズレ)があると思うのです。

百七十三年経った今でも、そういう理想の世界にはなっていないということは、私たちの「たすかり」は「今の」たすかりにあり、親神様の「た

すけ」は、(今を通して)「これから先」たすけていくというような、長いスパンのような部分があると云えないかと思うのです。

私たちにしてみれば、今、自分の身上・事情がよくなるということが「たすかり」であり、一人ひとりがそういう御守護をいただくことによつて、今にも陽気ぐらしの世界に立て替えてくださる、というような「理想」がどこかにあるかと思ひます。

私たちの「たすかり」は「今世」の中の理想であつて、「来世・来々世」という永い年限かけての「たすかり」というところまでは思ひがいたっていません。

それでは、親神様の仰る「たすけ」とは、と思索してみると、

このたすけ百十五才ぢよみよと

さだめつきたい神の一ぢよ 三号 100

そのうちハやまずしなすによハらすに

心したいにいつまでもいよ 四号 37

というように、私たち、すべての人間が百十五歳まで生き長らえ、しかも、病気になることも弱ることもなく元気で居れるということ。私たちの理想もそうでしょうが、「たすけたい」ということが、「今すぐ」のことなのか、「これから先」なのかというところに大きな違いがあるかと思うのです。

とするならば、私たちは、「今」もさることながら「これから先」ということもしつかりと視野に入れながら、たすかる道を歩んでいくという心を定め、その歩みを進めていくということが大切ではないでしょうか。

極端な話、「今、困っている身上・事情を御守護いただいたら、もうたすかったから、この道は関係ない」というのは、自分自身や家族だけのたすかりであって、「世界一れつをたすける」という言葉からすれば、程遠い考え方です。

私たちは、多少なりとも困っている人にたすかってもらいたい、そういう気持ちがあるからこそお道を通っています。どうしても「我が身・我が家の(今の)」というような短いたすかりであって、本当の意味での「世界一れつ」というところまでは思いがいたっていません。このことを心に留め置かなければなりません。

◎真の「たすかり」を知る……たすけ合う姿

立教の元一日、改めて思案すべきは、「世界一れつをたすけたい」というをやの思い、そしてそれを実現するためには何が必要なのかということだろうと思います。

私たちは、自分の知恵や力で自分の思う通りに生きることが、人間の幸せであり、この世に生まれてきた目的であるというような思いを、多くの

方が持っています。

学校で勉強をして素晴らしい技術を身に付け、世の中に出てしつかり働いて、皆、幸せになれる、何もかも自分がやっていけば幸せになれるというような、今の、勉強の仕方や技術の教え方。そういうことも大事でしょうが、かといって完璧な人間を求めてしまっては、むしろ駄目なのです。

病気がよくなれば、あるいは、事情がなくなれば完璧な人間だと思ってしまう。果たしてそれでよいのでしょうか。

それ自体が悪いことではないでしょうが、もし、この世界が、完璧な人間ばかりだったら、どうなるでしょう。すべての人間が、一人でも何もかもでき、すべて自分の思う通りに物事を運ぶことができる、という世界になったら果たしてどうなるでしょうか。

まあ、先ず間違いない、人間は苦しめ合い殺し合い、人間世界そのものが滅びてしまうでしょう。

みな完璧な人間ではないからこそ——顔も性格も得意分野も、皆それぞれに違い、お互いが足りない者同士だからこそ——たすけ合うということがの必要性も感じられ、そして、たすけ合い励まし合い勇まし合い喜ばし合うことができ、正しく本当の陽気ぐらしという世界が生まれてくるのではないのでしょうか。

ややもすれば、信仰によって身上や事情がなく

なることが「たすかり」であると、どこかで思い込んではいないでしょうか。それもたすかりの一つでしょうが、それが目的になってしまっているとするなら、「世界一れつをたすけたい」、あるいは、人間同士がたすけ合って陽気な世界を作り上げるといふ姿にはなっていないと言えないでしょうか。

完璧でないからこそ、お互いが認め合いたすけ合うことができるとするなら、身上・事情があるということは、決して人間の負の部分ではなくて、それらも認め合い、たすけ合うことによって、より一層陽気ぐらしの世界に立て替わっていくと言えるでしょう。

◎「かじもの・かりもの」を知る

こらほどにをもちはじめたこのせかい

月日の心なんとぞんねん

六号 87

言わば、陽気ぐらしを見たいといってこの世をお造りくださったのに、その姿に成らないどころか息苦しい世界に成ってしまったている、そのことが実に残念であると仰る。

では、その残念というところは、一体どこにあるのかと考えてみると、一つのヒントとして、おふでさきに、

めへくのみのおうちよりのかりものを

しらずにいてはなにもわからん

三号 137

というお言葉があります。

かしまの・かりもの、理が分からなければ、すべてのことは何も分からない。この世のすべて、親神様のすべての教えも、分かってこないということですよ。

つまり、かしまの・かりものということが分かっていないということが残念、ということに繋がってくると思います。

◎ 御恩報じの道を歩む

かしまの・かりものということが分かれば自ずと御恩報じという心に至るでしょう。

親神様のご守護・お働き、教祖のお導きによって今日こうやって結構に通らせていただいていることに、御礼を申しあげるだけで、やは喜んでくれます。

これだけしてやっているのだから、何か親孝行せえとか御恩報じせえとは仰っていませんが、ただ、私たち子どもからしてみれば、親が、苦勞してここまで育て導いてくださって、今、結構なのは親々の御陰だと思ふ心があるならば、をやの思いこそ守護・働きが分かれば、自ずと親孝行させてもらいたい、御恩報じさせてもらいたいという心になるでしょう。

御恩報じは言われてするものではありません。御恩報じをしようと思えば立つたらこの道を歩むの

です。

では、どうやって御恩報じしたらよいのでしょうか。

お父さんお母さんにお小遣いをあげたり、あるいは、お父さんお母さんの代わりに家事を手伝うのと同じように、お供えして、ひのきしんをする、正しく親孝行であり御恩報じの道でしょう。しっかりつとめたらよいのです。

それだけでもをやは喜んでくださいますが、をやにしてみれば、世界中で苦しんでいるきょうだいのことが気掛かりであっても声が届かないのです。

では、をやの代わりに、私たちがきょうだいをたすけに廻る。これが、にをいかけ・おたすけでしょう。

たすけに行くといっても何の手立てもなかったら難しかろうとお教えいただいたのが、つとめです。これがたすけのものとだてです。

おつとめだけでは、なかなか見えにくい部分もあるだろうといって授けてくださったのがおさづけでしょう。

そうして、一れつき、ふうだい同志がドンドンたすけ合う姿を創り上げたとき——皆がたすけ合う姿になったとき——親神様、をやが「世界中の子どもが皆たすけ合うて、身上も事情も乗り越えながらたすけ合っていく姿、これ陽気ぐらしやがな」

というたとき——に始めて、全ての身上・事情がなくなつて、百十五歳というご守護をくださるのではないのでしょうか。

◎ 眞実を出す

そうして合わせて考えてみたときに、この「御恩報じ」に、実は大きな意味があります。

御恩報じは、をやから言われてするものではなく、こちらの方からすること——御供もひのきしんも、にをいかけ・おたすけもそうです。——子どもの眞実を出すということです。

この「出す」というところに、実は、大きな「たすかり」があります。世間で言うところと一番嫌われるところですが、誰も出したくないから。

でも、その「出す」というところに、本来のたすかりがあります。

なぜならば、私たちは身上であろうが事情であろうが、あるいは元氣であろうが、今世徳一杯の人生を歩んでいます。

徳一杯の人生を歩んでいるということは、言わば、コップに水を満タンに注いでくださっているようなものです。それぞれの器一杯に水(徳)を入れてくださって、今世を歩んでいます。

御恩報じも何もしていなくても、たすけてくださいます。親神様が、コップの上からザーッ

と御守護を注いでください。

しかし、既にコップがいっぱい(徳いっぱいのお互い)なら、上から注いでも、御守護は全部こぼれ落ちてしまいます。

蓋をしたままお願いしたのでは、結局、ご守護いただけず全部こぼれてしまうのが道理ではないでしょうか。

どうすればよいのでしょうか。

簡単なことです。中にある水(徳)を少しでも親のためにと出して出すことによって、当然、出した分が付いてきます。

たすけてくださいとお願いすれば、同じように上から注いでください。減った分、必ず入ります。

尚かつありがたいのは、御恩報じとして出す水は、汚れた水(泥水)です。たすけてやろうと注いでくださるのは、きれいな水です。

単に水を足してくださいさるだけではなくて、汚れた水を出せば出すほど、中に入る水は、きれいな水に立て替わってきませんか。

知らず識らずに心の汚れを出すからこそ、心が澄んで、いんねんが澄んで、正しくたすかっという姿になってくるでしょう。

この御恩報じという行ないにこそ、たすかりという一つの理が生まれてくる、因縁納消はここに初めてなってくるということが言えるでしょう。

汚れた水のまま、いくらたすけてくれと言っても、水は何も変わりません。出すことによって、自ずときれいな水を頂戴して、身上(身体)のみならず、心さえも澄み切らせて、陽気ぐらに立て替えていただく、ということではないでしょうか。

日々月々の御供、そしてひのきしん、そしてにいがけ・おたすけ、これはすべて御恩報じ。それぞれに真実を出せば出すほど心の汚れを出すことになり、そして、その理によってより大きなご守護を頂戴できるということになってくるでしょう。

◎さあ、御恩報じの道歩もう

話が難しくなりましたが、私たちの「たすかり」と親神様の「世界一れつをたすけたい」という思いには、大きなズレがあるということ、また、私たちが目指すべきところは、私のたすかりを通して世界のたすかりに繋げていくという信仰の歩みをしていくことが大事だということを、改めてこの立教の元一日に、思案したい。

その心に立て替えていくために、「かしものかいもの」や元の理のお話、また、八つのほりという解き訳も必要になってきます。突き詰めて考えれば、人をたすける心に立て替えるために、すべての教えがあるのです。

先ず、私たち、今日、お道に引き寄せられている私たちを通して、「世界一れつをたすけたい」ということであります。

祭文にも書きましたが、世界のの人に先んじてお引き寄せ頂いた私たち一人ひとりが、人をたすける心になって、たすけ一条の歩みを進めることが、世界たすけに繋がってきます。

今日、お引き寄せいただいている我々一人ひとり、かしものかりもの理を思案して、御恩報じの心をしっかりと使って、御恩報じの道歩むことによって、世界一れつがたすかってくるということ。これをしっかりと心に置きたいと思う次第であります。

を、やから、御恩報じとして教えていただいた道です。御恩報じという心は無くても、を、やは必ず、行ないを御恩報じとして受け取ってください、同じように御守護ください。

御恩報じの心が有るからする、無いからしない、というのではなく、有る人はなおさら、無い人はなおのこと、しっかりと御恩報じの道、共々に歩みたい。かように思います。

どうぞ、その心で、十月三十一日・一手一つ大会、来年の創立百二十周年記念祭、そして教祖百三十年祭を目指して、共々に、精一杯、御恩報じの道歩みましよう。よろしくお願い申しあげます。

大教会
一手一つ大会

記念祭に向け

成人を誓い合う

おつとめ奉仕人増加目指して

大教会では10月31日「笠岡一手一つ大会」を開催、あいにくの雨の中にもかかわらず1千309人(受付数)が参加した。教祖130年祭に向かう一里塚として来年11月30日大教会創立120周年記念祭がつとめられる。大教会の教祖130年祭の目標である「おつとめ奉仕人の増加」に向け、この大会を通して各教会のおつとめ奉仕人としてつとめて欲しい人、また大教会につながるよふぼく、信者が一手一つに記念祭にふさわしい成人をさせて頂こうと開かれたもの。おつとめ、大教会長様挨拶、感話、模擬店、アトラクション、福引きなどの行事が行われ、講堂、中庭にモニターテレビが設置された。

午前は、神殿上段でおつとめ衣をつけて坐りつとめ、十二下りのおつとめまなびを少年会員をはじめ、よふぼく、信者ら約300人が各下りをブロックごとに分け14交替(一下り目・二下り目、少年会員)でつとめた。おつとめ後、記念撮影をした。

引き続き、大教会長様が「来年創立120周年を迎えさせて頂く。記念祭の旬にふさわしい成人をさせて頂く」ということで、昨年三年千日と仕切って『初代の心にかえり信仰の喜びを深めよう 伝えよう 広げよう』をスローガンに挙げて歩ませて頂いているが、記念祭が終着点ではなく、教祖130年祭に向かつてより大きく成人する為の理づくり、地固め、基礎固めの旬。

理づくりとして、初代の持っていた信仰の喜び、感激、感謝の気持ちにかえった心の信仰を作り上げると同時に、家族にもしっかりと信仰を伝え、共に通らせて頂くことが大切。

一手一つ大会は会を開くことが目的ではなく、大会に向けての成人の歩みが目的であり、その歩みを集大成しての大会である。この理を持って来年、記念祭に向けての仕上げの年を頑張らせて頂きましょう」と創立120



おつとめまなびは少年会員を含む14交代で

この後、参加者を代表して山田敏教さん(甲井分)、北川祥江さん(稲倉分)の2人が感話。山田さんは、夫人の身上を通し「2人の子供たちの気持ち様が神様の方に向いた。神様よりお借りしている身上に對してのご恩返しがお道の一番の信仰であり、つくした理、はこんだ理は末代変わらないう」と話し、北川さんは、布教の家・兵庫寮での生活を通して「親を立てれば、その立て

上原明勇様

本部青年に登用される

大教会長様長男・上原明勇様は、10月26日付で本部青年に登用されました。親里高校を卒業、岡山科学技術専門学校に進まれ、その後、本部勤務、修養科、教会長資格検定講習会を修了され、平成21年9月から本部ひのきしん青年としてつとめておられました。

周年記念祭、教祖130年祭に向かう私たちの心の置きどころを話された。

た理でたすかると聞き、ただ教祖を信じ、にをいがけに回り別席者、修養科生のご守護を頂いた。ご存命の教祖がいつもお連れ通り下さっていることを痛感した」とどげの理の尊さ、また自身の勇みの種について話した。

午後からは、会場を中庭に移して昼食を兼ねた模擬店、アトラクションが行われた。

おつとめ開始後から降りだした雨は、時間が経つにつれ本降りになり、会場、アトラクション係は設置された舞台へのシートかけ、昼食用のシート取り除き、模擬店のテントの補強など大奮闘。

雨にもかかわらず舞台では直轄隊・福山隊・高屋隊・島根隊による鼓笛演奏、よきこいソーラン節、ダンスが繰り広げられ。おにぎり(婦人会)○フライドポテト(東ブロック)○唐あげ(西ブロック)○うどん(福山分)○ケーキ・コーヒー(高屋分)○出雲そば(島根分)○おでん(上下・府中市分)の各模擬店も行列の出来る大盛況。参加者は雨を避けて吹き抜けて観覧。

最後に、福引きが行われ、当選番号が呼び出さ



雨にも負けず繰り広げられたアトラクション

れる度に参加カードの番号と合わせながら一喜一憂。3等賞からは大教会長様が当り券を選ばれ、最後の1等賞の発表時には会場から拍手と歓声が沸き上がり、楽しいひと時を過ごすと共に、成人への歩みを誓い合い閉会した。

参加者全員に創立120周年記念祭の日時、スローガン入りのテキストシュペーパー配布、おつとめ奉仕人には記念写真が渡された。

事前打ち合わせ会議開く

実行委員会(田中一之委員長)は10月29日午前9時から約1時間、同委員10人が出席して最後の打ち合わせ会議を開き、スケジュール、各役割などの確認を行った。

台風14号接近が危ぶまれる中、雨天の場合は状況が大きく変わるため準備開始時間、テント設営、物品搬入、参加者の送迎、おつとめ奉仕人の着替え場所、アトラクション会場の移動など、あらゆる事態を想定して細部にわたり相談された。

おつとめ奉仕人の声 (敬称略)

○坐りづとめ

(小鼓) 海松ヶ岡分 池田靖和
やっぱり緊張した。ちょっと間違った。

○よるづよ八首

(すがね) 輝美濃分 谷内幸司
間違えずつとめられた。うれしい。

○二下り目

(てをどり) 久松分 渡邊元弥
ちょっと緊張したけど面白かった。

○二下り目

(胡弓) 高屋分 占部春々菜
緊張した。大変だった。疲れた。

○三下り目

(笛) 福順分 東濱進
思ったよりうまく出来なくショックです。

○四下り目

(三味線) 福岩分 山本由紀子
失敗はしていないと思うんですけどー。

○五下り目

(胡弓) 坪生分 松見弘子
もう心臓がバクバクでした。

○六下り目

(小鼓) 芦常分 原啓道
まとまってきれいに出来ました。

○七下り目

(てをどり) 伯 仙 分 安 部 由 美 子
ちよっと手の出るのが遅かったです。

○八下り目

(てをどり) 亀 田 山 分 足 立 純 江
何とか乗り切りました。

○九下り目

(三味線) 葦 沼 分 水 上 裕 美
緊張して間違いました。

○十下り目

(てをどり) 大 江 橋 分 村 川 朱 美
気をつけて身体が熱くなりました。

○十一下り目

(てをどり) 上 下 分 山 野 富 美 子
リラックスして楽しんで出来ました。

○十二下り目

(三味線) 河 面 分 出 羽 満 子
上がって違う所を押さえました。

参加者の声

○会長でも上がってつとめさせて頂いたことがない人がいるのに、少年会員が上段でつとめさせて頂くのは恐縮だった。(中2男子の父)
○おつとめをつとめさせて頂くにあたって、緊張感を持って間違えない様につとめさせて頂いた。

た。日頃のおつとめが大切であると感じた。

(20代男性)

○身体の不自由な人への配慮が足りない。エレベーターはあるがエレベーターの前(神殿)に多くの参拝者がいて、乗り降りが困難。係の誘導などが必要ではなかったのか (50代女性)

○神殿内のスピーカーからの音がほとんど聞き取れなかった。(80代女性)

○途中から雨になり残念だったが、雨の中、中止せずに皆さんよく頑張って下さった。天気が良ければもっと良かった。(30代男性)

実行委員会から

このたびの笠岡一手一つ大会にむかって、大勢の方々が、心一つにつとめて頂きましたこと厚く御礼申し上げます。千名を予測していましたが、大会前日まで参加者が増加して千三百を超え、各模擬店の担当者に急きょ無理を言って増やして頂くなどうれしい悲鳴となりました。

数日前の天気予報では、台風十四号が大会を直撃するのではないかと心配されましたが、皆様の熱気で海上遙かに進路を変えてゆきました。おつとめが始まる前、つとめ衣に着替えた少年会員、一般ようぼく二百八十名の方々の前で挨拶をさせて頂いたときには、薄日が差すほどでした。皆さ

ん上段で真剣に勤めて頂きましたが、これが各教会でのおつとめ奉仕人の増加につながることを切に願います。

午後の行事は小雨交じりになりましたが、模擬店、四隊の鼓笛演奏、ダンスよきこいソーラン、福引きと盛り上がりました。育成係のもとに、婦人会、青年会、少年会、学生会と若い人たちが一手一つに勤めて頂きました。これからの笠岡の道に期待しています。

昨年「初代の心にかえり 信仰の喜びを深めよう 伝えよう 広げよう」とのスローガンを掲げ大教会創立百二十周年に向かい三年千日活動を開始しました。そして五月二十一日には世話人島村廣義先生をお迎えして「決起の集い」を開催しています。十月二十五日に「持ち場立場で日々作り」の集大成として、別席ひのきしん団参を行い千二百二十名が帰参しました。本年に入り六月二十七日にも別席ひのきしん団参を行い、千名を超す人々が本部礼拝場に集い、おつとめの後尊い汗を流しています。本年は信仰の喜びを伝えるべく「家族揃って教会参拝」に力を注ぎ、その盛り上がりを一「一手一つ大会」に結集したのでした。

いよいよ来年は三年千日仕上げの年として、これまでの活動を受けて、信仰の喜びを広げるよう「一日一件をいがけに」に邁進して、素晴らし

い創立百二十周年祭を迎えたいものと思えます。
(創立120周年実行委員長 田中一之)



「お帰り講話」実施

布教部・10月25日詰所で

終始、参加者の前を移動しながらの講話

布教部(中村剛部長)は10月25日、午後7時30分から約1時間、詰所講堂で、美並伸久先生(城法大・多味分教会長)を講師に迎え「お帰り講話」を実施、宿泊者など186人が参加した。

先生は司会者から紹介されると、いきなり会場内を回り乍ら「親神様」の歌を歌いだされた。全員での合唱となり、和んだ雰囲気の中で始まり、用意された演台の前には立たれず終始、参加者の前で講話をされた。

まず「平成24年に迎える城法大教会創立120周年に向け、大教会長様を先頭に大教会を挙げて『にいがけ活動』に取り組んでいる」と同教会の勇んだ現状を話され、次いで、これまでの体験を通して「私たちの信仰している天理教は今迄、教えられていないこの世の元初りを教えられた最後の御教えで、その理を学ぶことで、真にたすかる道が見えてくる」と、お道のすばらしさを述べられた。

そして「明日26日は秋季大祭で、その日があるから笠岡大教会も創立120周年を迎える日がある。親神様のご守護は『かんろだい』から国々処々に行き渡り、参拝者一同で神名を唱えることでご守護を頂き、それを喜び勇んで持ち帰り、家族や周りの人たちにも差し上げることで陽気ぐらし世界の実現に近づくことが出来る。私たちはその一助を担わせて頂いている」と、秋季大祭に参拝させて頂く心構えなどを話された。

笠岡大ワールド、山口教区に惜敗 全教野球大会

「大会の敵は自分たちの落ちている体力。目指せ省エネプレー」をスローガンに、笠岡大ワールドブラザーズ(平盛秀年監督)は第38回全教野球大会(布教部主催)に岡山地区代表として出場。

野球を通し健康に感謝を目的に毎年、親里で開催され、10月28日から30日にかけて各地区の予選を勝ち抜いた36チームが参加した。

1回戦は、おやさと代表の電気課と対戦。4-3で接戦を制し、続く2回戦は7-1で大分教区に圧勝。3回戦へと駒を進めた同大チームの相手は山口代表の山口教区。

投手力に勝る山口教区に対し、笠岡大も徹底したチームプレーで対抗したが、最終回、痛恨のサヨナラ、ランニングホームランをゆるし、0-1xで涙をのんだ。勢いに乗った同教区は勝ち進み優勝した。

笠岡大のメンバーは、ほとんどが仕事を持ち、フルメンバーでの連日の試合は困難。今後の課題の一つであり、山口教区戦は10人での戦いだった。



おつとめ役割表

立教173年10月31日

胡弓	三味線	琴		小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり			地方			氏名	教会	ブロック名							
										大教会	奥	様	正木	吉岡	渡辺				氏名	教会	ブロック名				
杉原登喜子	常井三三代	岡田玉江	三島美保子	荻野恵美	谷内キヨ	池田靖和	仁井美千雄	三宅正美	上原繁次	岡崎喜久子	藤井正弘	片岡道雄	浅野宜宏	大教会	奥	様	藤本節子	頼軽 萌鶴山	正木伸幸	吉岡史郎	渡辺和善	氏名	教会	東	坐りづとめ
明石市	皆部	備中	新山邑	錦備	輝美濃	海松ヶ岡	吸江	作備	陶山	笠岡	芳井	陽備	笠岡	宮崎智司	吉岡弘子	樋上郁子	上原宏恵	岡崎治喜	中島信行	西村健	氏名	教会	東	よろづよ八首	
仁科幸子	岡田玉江	柚木昭子	白神みゆき	荻野恵美	常井三三代	水田幸男	谷内幸司	吉岡裕晃	岡崎一郎	藤井大輔	森本信彦	香取満彦	山口晃治	宮崎智司	吉岡弘子	樋上郁子	上原宏恵	岡崎治喜	中島信行	西村健	氏名	教会	東	よろづよ八首	
笠岡	備中	備	錦ヶ原	錦備	皆部	新山邑	輝美濃	照陽	笠岡	芳井	海松ヶ岡	川島郷	芳井	宮崎智司	興明	金浦	陶山	弥高山	鶴山	吸江	氏名	教会	東	よろづよ八首	
山野奈々	森本みさき	藤井あかり	佐藤あおい	住川理奈	吉岡はるか	佐々木雄史	松浦里奈	森本伸平	山野大地	岡崎萌	吉岡真生	渡邊元弥	高島治之	楠真矢	上原成実	三阪いくえ	武内ゆかり	佐藤孝祐	森本忠一	今川昌彦	氏名	教会	少年会	一 下り目	
上	海松ヶ岡	福山	芳井	高屋	興明	福山	金浦	海松ヶ岡	上	岡	高屋	松	根	神邊	岡	福山	高屋	芳井	海松ヶ岡	育成係	氏名	教会	少年会	二 下り目	
占部春々	吉岡あや	田中旬	荒木郁海	片岡千夏	内田絵美	上原守	村上仁美	吉岡利紗	山田勇輝	柏原拓海	上原孝	高橋一朗	国定直輝	丸山隼人	上原望美	福本真央	常井由香	吉岡優樹	中村三代	中村義太郎	氏名	教会	少年会	二 下り目	
高屋	興明	福山	松	備	根	岡	葦陽	湯田原	府中市	島中	岡	根	新山邑	木津和	岡	江	部	照陽	笠岡	育成係	氏名	教会	少年会	二 下り目	
宮本善子	佐藤弘子	小寺敏子	藤本知香	平盛玲子	佐々木照江	藤井道博	藤井淳司	土井郷司	掛谷和由	木梨貴之	東浜進	藤井泰浩	三阪泰蔵	小林信行	藤井靖子	福島友美	松岡郁江	原敬之助	酒井信広	枝広延命	氏名	教会	福山	三 下り目	
廣町	福芦	福中	西村	昭	廣	福富士	福節	福芦	福南	福年	福順	福富士	福岩	廣町	福山	福満	福節	西村	福勇	東福山	氏名	教会	福山	三 下り目	
木梨直子	田頭憲子	掛谷キクエ	山本由紀子	桑山郁恵	壇上優子	谷屋賢三	井上正和	土井郷司	佐藤大地	池田正治	壇上剛之	佐藤憲和	枝広正寛	前山欣映	佐々木さと子	前山憂子	原愛	藤井泰浩	淵内真吾	植田健二	氏名	教会	福山	四 下り目	
福年	福満	福南	福岩	福満	福野	福引	福山	福芦	福芦	福山	福満	福芦	福山	福勇	福廣	福勇	福村	福富士	福昭	福山	氏名	教会	福山	四 下り目	
松見弘子	猪原ひとみ	猪原恵み	岡部美津恵	三嶋千春	瀬良 恵	栗原 豊	渡辺勝輝	三嶋達也	瀬良 茂	重政弘美	北川祥江	重政昭治	掛谷保教	田中正行	瀬藤彩香	三嶋ひとみ	大山恵子	瀬藤友昭	三嶋康祐	武内清和	氏名	教会	高屋	五 下り目	
坪生	門司港	真金	東水島	高見島	高屋	香地華	仲條	高見島	仲條	稲倉	仲條	坪生	坪生	高屋	大恵山	大恵山	大恵山	大恵山	大恵山	大恵山	氏名	教会	高屋	五 下り目	

笠岡一手一つ大会

胡弓		三味線		琴		小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				地方	ブロック名						
北川さち子	小川弘恵	原裕美	阿部道子	中村郁江	魚川郁子	原啓道	貞清泰士	原和男	三宅孝治	藤井洵	北川祥江	小川宣由	藤本道喜	北川和成	竹内理江	北川雅子	松井良恵	藤本直樹	竹内治彦	大月勇樹	氏名教会	高屋	六下り目
稲倉	芦加茂	常	坪生	品倉	稲倉	常	三郡	常	倉	倉	倉	芦加茂	惠陽	稻倉	品倉	倉	陽	惠陽	品倉	稻倉	氏名教会	島根	七下り目
常松奈保	長江栄子	三代いづみ	神門さと	内田留美	門脇久美	金平貴之	余村元島	福谷克己	津森美教	杉本裕樹	高島一定	三代拓己	三代節生	原田敏雄	余村伸子	石川睦子	安部由美子	仙田幸次	高島利幸	本多正悟	氏名教会	島根	八下り目
出雲	米美	米美	島根	照雲	龜田山	西伯	根	米府	篠ノ川	新輝豊	出雲	米府	東	龜田山	多古浦	出雲	仙	出雲川津	出雲	西伯	氏名教会	島根	九下り目
杉本美由希	野津由美子	本多知代子	余村八重美	津森一重	杉本悦子	森川道弘	高島利幸	三代節生	糸川健	奥村安雄	高橋信男	糸川道之	鳥谷達男	松本広明	足立純江	岡本由美子	熊沢千稚子	勝田光男	高島一定	三代一実	氏名教会	島根	十下り目
新輝豊	天場山	西伯	多古浦	篠ノ川	新輝豊	弓ヶ濱	出雲	雲東	松都	出雲川津	龜田山	都	雲	島根	龜田山	照雲	洋	松都	出雲	雲東	氏名教会	西	十一下り目
豊田昌美	坂上房子	渡辺志保	水上裕美	稲月稔恵	淺野芳子	井上隆雄	楠めぐみ	桑田直軌	渡辺靖敏	渡辺悦子	横山将太郎	吉岡登陽	笹尾光孝	小坂義幸	三島直美	河相浩宣	河相浩宣	村久史	岡田利道	岡田利道	氏名教会	久松	十二下り目
沼	昭	神	神	神	神	神	神	神	神	神	東城	湯田原	陽	邊	陽	東城	湯田原	湯田原	陽	昭	氏名教会	久松	十三下り目
土井美香	中村直美	中村美恵	玉谷幸子	小川貴美子	前田多真栄	鍵平修久	村川忠	高橋誠	前田悠揮	村川秀利	下田治輝	玉谷俊次	村上晃一	中村真人	村川朱美	井上那奈子	小川小百合	村川真二郎	渡辺直己	中村行善	氏名教会	久松	十四下り目
久松	松	松	福	治	村	福	江橋	治	村	江橋	村	福	村	松	福	福	治	大江橋	品治	久松	氏名教会	上	十五下り目
田渕智子	岡田サカエ	武田光代	田村美美恵	小西真実子	池本理恵	田中慎一郎	河田正彦	武田聰	田渕忠明	丸山良和	小西陽司	下田勲	池本邦昭	押尾功司	山野富美子	押尾房枝	茨木紀子	日南住宣孝	茨木文明	田中俊道	氏名教会	上	十六下り目
上備	清嶽	眞府	上小島	國須	上吉野	上小島	國須	眞府	備	木津和	國須	行藤	上吉野	上下	上下	上下	吉舎	上下	吉舎	上下	氏名教会	下	十七下り目
龜田広子	川元葉子	山田佳余子	出羽満子	渡辺奈美	土井歩美	坂上通正	日下宏	岡佑一郎	山田慶太	日下巧	中島富夫	松谷修基	坂井健二	山田要	井上トミコ	坂上節子	為平寛	向島時儀	山田英嗣	山田英嗣	氏名教会	府中市	十八下り目
宇津戸	上川邊	甲井	河面	上父	府中市	府中市	府中市	上父	甲井	府中市	河佐	宇津戸	府中市	甲井	府世原	府中市	甲井	府世原	府世原	府世原	氏名教会	府中市	十九下り目

▼高屋隊

実施日 平成22年8月5日・6日
 参加者数 少年会員10人 育成会員5人 合計15人
 プログラム 5日 16:00 集合、学習。
 18:30 夕づとめ。
 夕食、入浴。
 花火。
 6日 5:30 起床。
 6:00 朝づとめ。
 朝食。
 8:00 天神峡へ出発。
 16:00 教会帰着、解散。



所感 少人数でしたが、楽しく過ごしてくれたと思います。

▼高児島隊

実施日 平成22年8月5日 / 少年会員4人 育成会員4人
 /参加者数 8月13日 / 少年会員5人 育成会員5人 合計18人
 プログラム 別にプログラムらしいものはありませんが、朝夕のおつとめと会食をしました。
 5日は月次祭で奉仕者が少ないので少年会員もおつとめに参加してもらいました。
 13日は地域の盆をどりに参加させました。

▼明石市隊

実施日 平成22年8月7日・8日
 参加者数 少年会員16人 育成会員13人 合計29人
 プログラム 7日 15:00 育成会員集合、準備。
 17:00 少年会員集合。
 18:00 夕食、風呂。
 22:00 就寝。
 8日 7:00 起床。
 8:00 朝食。
 9:00 解散。

所感 町内のソフトボール部員、監督、コーチ、父兄の合宿をお泊り会として計画した。
 8/7の夕づとめには、お母さん方が参拝。
 8/8の朝づとめには、コーチ参拝。
 全くの未信者ですが、教会が地域のより所として毎年実行することとした。

▼稲讚隊

実施日 平成22年8月10日
 参加者数 少年会員2人 育成会員2人 合計4人
 プログラム 月次祭後実施。

▼葦陽隊

参加者数 少年会員8人 育成会員5人 合計13人
 プログラム 6:30 朝づとめ、かしもの・かりもののお話。
 7:30 そうじ。
 10:30 遊園地。
 13:00 昼食。
 14:00 撤饌の手伝い。
 自由遊び。
 19:00 夕勤後、焼き肉パーティー。
 所 感 暑さに負けず皆元気で参加してくれ何よりでした。
 焼き肉は皆大喜びでした。焼き肉は青年会、女子青年も参加で、全員で
 22人となり有難かったです。

▼福山隊

実施日 平成22年8月11日・12日
 参加者数 少年会員27人 育成会員6人 合計33人
 プログラム 11日 16:00 集 合。
 17:00 参拝、夕食(片付け)、入浴。
 18:30 夕づとめ、入浴。
 19:30 ゲームラリー、ミニモギ店(21:00まで)
 22:00 消 灯。
 12日 6:00 起 床。
 6:30 朝づとめ。
 7:00 教会周辺のゴミひろい。
 7:30 朝食(片付け)。
 9:30 プールに出発。
 12:00 プール終了。
 12:45 昼 食。
 13:30 解 散。
 所 感 夏休みということで、子どもおぢばがえりに行ってくれた子供さんをさ
 そいしましたが、当日、夏かぜで欠席となり、少々残念に思いましたが、来
 てくれた子供達は皆、喜んでゲームラリーに参加し、ミニモギ店もうれし
 そうでよかったです。久しぶりに参加してくれた子もすぐにうちとけてく
 れ、一回でも二回でも教会に来たことのある子はむかえる側もなつかしく
 うれしい気持になりました。人数は関係なく続けていきたいと思いました。

▼上下隊

実施日 平成22年8月12日・13日
 参加者数 少年会員8人 育成会員7人 合計15人
 プログラム
 ・おつとめ練習。
 ・祭典準備ひのきしん。
 ・お楽しみ行事(花火 他) 以上



▼久松隊

実施日 平成22年8月13日・14日
 参加者数 少年会員4人 育成会員5人 合計9人
 プログラム
 13日 14:00 集合。
 14:30 ひのきしん、教会内掃除。
 18:00 夕づとめ、後お話10分。
 19:00 夕食。
 20:00 入浴、後自由時間。
 21:30 就寝。
 14日 6:00 朝づとめ。
 7:00 朝食、後解散。

所感 1人は小五年生、3人は就学前と幼いのでお話、おつとめ勉強等無理なので、2~3年後を楽しみに続けます。



▼府中市隊

実施日 平成22年8月13日
 参加者数 少年会員2人 育成会員4人 合計6人
 プログラム
 ・地区の祭りへ、一緒に参加。
 ・夕食を一緒に作って食べる。
 ・夕涼みに散歩。
 所感
 ・子供が、もう少し多ければ...。
 ・定期的に会を企画していきたい。

▼芦品隊

実施日 平成22年8月13日・14日
 参加者数 少年会員 芦品9人 部内7人(泊り1人) 育成会員 宿泊時 4人
 プログラム
 ・祭典参拝。
 ・昼食。
 ・ひのきしん(ローカ拭き、参拝場そうじ、窓ふき) 一応、ここで解散。
 ・夕づとめ参拝、男鳴物練習。
 ・夕食、フロ、就寝。

▼皆部隊

実施日	平成22年8月14日・15日	
参加者数	少年会員6人 育成会員3人 合計9人	
プログラム	14日	10:00 掃除ひのきしん。 お 話。 12:00 昼 食。 13:30 川遊び(魚とり)。 18:00 夕 食。 19:00 夕づとめ。 みかぐらうたの練習、鳴物練習。
	15日	7:00 朝づとめ。 7:30 朝 食。 8:00 勉 強。 お話、みかぐらうたの練習。 11:00 掃除ひのきしん。 12:00 昼 食。 13:00 社会見学(湯原町のオオサンショウウオ)。 17:00 解 散。

▼坪生隊

実施日	平成22年8月14日・15日	
参加者数	少年会員8人 育成会員17人 合計25人	
プログラム	14日	16:30 集 合。 17:00 夕づとめ、開会式、会長お話し、 夕食準備、入浴。 18:00 ガーデンパーティー。 19:30 花 火。 20:00 薬師堂まつり参拝(10分)。 21:30 おやすみ行事、就寝。
	15日	6:00 起 床。 6:30 朝づとめ、会長お話し。 7:00 朝 食。 7:30 ひのきしん。 8:30 川遊び出発 天神峡。 留守組 昼食ひのきしん。 12:30 帰会、昼食。 14:00 解 散。
所 感	少年会員は少なかった(お盆のため、親と里帰りをしている子供達がい た)のですが、お泊まり会で育ってくれた高校生も多く参加してくれ、食 事の準備、片付け等、手伝ってくれ、いい形でお泊まり会が出来たと思 います。 又、近所の子供達の親も食事の準備等手伝って下さり有難かった。	

▼陽備隊

実施日 平成22年8月15日・16日
 参加者数 少年会員8人 育成会員5人 合計13人
 プログラム 15日 13:00 集合、参拝。
 (日) 自由時間(宿題)。
 18:00 夕づとめ。
 19:00 夕食、片付け。
 20:00 花火、風呂。
 22:30 消 燈。
 16日 6:00 朝づとめ。
 (月) 7:30 朝食、片付け。
 自由時間、宿題。
 10:00 移動(娯楽施設)。
 15:00 参拝、解散。



所 感 身内の子ばかりですが、長い目で、このお道のすばらしさを体感して貰える様、こちらの成人と共に子供おぢばがえりにも参加してくれる様に、この先つとめてゆきたいと思いました。

▼福富士隊

実施日 平成22年8月18日・19日
 参加者数 少年会員18名(泊)+3名(18日のみ)
 育成会員5名 合計26名
 プログラム 18日 17:00 集 合。
 17:30 夕食(カレー・福神漬・ちくわきゅうり・
 フランクフルト等)
 18:30 夕づとめ、会長話。
 19:00 会館へ移動。
 ゲーム、DVD。
 かき氷、プリン、ジュース。
 22:30 消灯 寝袋で...。
 19日 5:30 起 床。
 会館の掃除。
 寝袋干す。
 6:30 朝づとめ、会長話。
 7:00 朝食(納豆、みそ汁、ヨーグルト、ゼリー等)。
 9:00 解散したが誰も帰らず、遊び。
 12:00 昼食(急きょ用意した)。
 14:30 流れ解散。

所 感 第2回目お泊り会
 近くの会館を借りて楽しくつとめました。近所の方5人も参加されて映画鑑賞。夜は寝袋で休みましたが、よく休んでいました。明るく解散をしても帰らず、昼食を出し、おやつを出して、午後3時、帰って行きました。団長先生の視察に一同心より嬉しく思いました。

▼芦品隊(芦方布教所)

実施日 平成22年8月15日・16日
 参加者数 少年会員6人 育成会員4人 合計10人
 プログラム
 15日 16:00 夕づとめ。
 16日 8:00 朝づとめ。
 9:00 ひのきしん(陽気ラーメンのにんにく皮むき)。
 13:00 昼食(ラーメン)。
 14:00 広島平和公園で学習。
 16:00 夕づとめ。
 18:00 夕食、たこ焼パーティー。



▼芦常隊

実施日 平成22年8月19日・20日
 参加者数 少年会員5人 育成会員6人 合計11人
 プログラム
 19日 16:00 集 合。
 19:00 夕づとめ。
 会長の話。
 19:30 外でバーベキュー。
 花 火。
 20日 6:30 起床・洗面。
 7:00 朝づとめ。
 食事、後片付け。
 8:30 夏休みの宿題。
 11:30 食事の準備。
 12:00 昼 食。
 13:00 東部支部ハートクリーン参加。
 17:30 甲山20日えびす祭、だんじり先頭綱を少年会で引く。
 ~21:00

所 感 20日に世羅町甲山にて400年の歴史ある甲山えびす祭へ参加。東部支部少年会員と地元子供会員がだんじりを引く綱を持ち、歩く。戸手から大型バスにて育成係、少年会参加。焼肉、夕方よりえびす祭へ参加、花火、少年会員大変喜ぶ。



秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には人間の陽気ぐらしを楽しみに 紋型ないところよりこの世と人間をお創造はじめになり 守護を教え 八千八度の生まれ更りを経ると共に 智恵や文字の仕込み等をして下さって今日まで十全の御守護で以てお育て下さっております しかるに「こらほどに をもてはじめたこのせかい 月日の心なんとぞんねん」の姿がある上から 天保九年十月二十六日教祖を月日のやしるとお定めになり 親自らこの世界だすけの道をおつけ下され 陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に有難く 勿体ない極みでございます 世界の人に先んじてお引き寄せ頂いた私共はその意味を悟り 届かぬながらも日々理作りに励み ご恩報じを思念してお召に添うようたすけ一条の御用の上に勤め 励ませて頂いております その中にも今日の吉日は おぢばの理のお許しを戴いて立教の元一日を記念してつとめる秋の大祭の日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 慶び心一つに睦び合って明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には遠近を問わず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 日頃積み重ねた真実心の理を持ち寄り 言改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又本日は立教の真意であります「世界一列を救けるために天下った」とのお言葉に込められた親心に改めて思いを至し心にきざみ直させて頂いて これからの成人の歩みに繋げて行く所存でございます 今世上は豊かさを求めるあまり 欲が複雑にからみあい身動きが出来ないまま資源を食い荒らし真面目に生きようとする人達が生き難くなっています 先行きが混沌としております それゆえにいやが上にも教祖のひながたの歩みが重要になって来ると思われますので よふぼく一人ひとり がしっかりとひながたを心に湛えてたすけ一条の御用の上に 旬々の御用の上にと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には世上の欲に切りない泥水に押し流される事なく 暗闇の中の一筋の光に導かれるごとく御恩報じに歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に尚一層の自由の御守護を賜わり 一人でも多くの人をひながたの道へとお導き下さいます お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

第837期修養科募集要項

*修養科期間

立教173年12月1日～立教174年2月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	岡 崎 和 夫	(大教会役員・弥高山分教会長)
1ヶ月目	枝 廣 隆 文	(東福山分教会長)
2ヶ月目	渡 邊 隆 夫	(神 昭 分教会長)
3ヶ月目	高 田 一 弘	(眞 府 分教会長)

*募集要項

- ・ 志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を終了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、3月1日午前10時に解散。

日南住彩さん
大活躍(世羅高)
12・16 全国大会出場へ
女子駅伝

平成21年1月21日付、本誌『かさおか』で紹介した日南住彩さん(上

下分よぶべく、日南住宣孝さん長女、世羅高3年)は11月7日、全国高校駅伝の県予選を兼ねた広島県高校駅伝、女子の部(5区間)に出場。

3区を走る日南住さんは3位でタスキを受け力走。区間新のタイムで同校はトップに。後続のランナーもリードを広げ、鮮やかな逆転劇で同

校は2年連続4度目の頂点に立ち、12月26日に京都市で行われる全国大会に出場する。「京都・都大路」での日南住さんの活躍が期待される。

大教会障子張替え
ひのきしん
11月4日～5日 管理部 婦人会

管理部・婦人会では11月4日、5日の両日、大教会内障子洗い・張りひのきしんを実施、延べ約70人が参

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「大」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとございます。

地位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子さん

大祭の紫紺の教旗秋深む

▼表紙の絵

神辺分教会 よぶべく 小坂道利さん

加した。毎年行われるもので、今回は会長宅一階、二階、また神殿一階全部屋を行った。



毎日同じ様な一日であっても、今日という日は二度とない。

平穩に暮らす日常生活の中にも、当たり前の事が当たり前でなくなると人は平常心でいられなくなると

思わぬ事が、突然、我が身に降り掛かれば予定していた事でも計画通りにいなくなる。

自分がいくら絶対と思っていた事でも、それ以上に重大な事が起こるとそれが優先される。

自分の身体が、不具合を起こせば、全ての予定がキャンセルされる。何時、どんな時でも、日々の行動に悔いの残らない様、喜んで通れる一日を心掛けたい。(む)

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字～1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄稿先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。